

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

「移民の継承語とエスニックアイデンティティに関する社会言語学的研究」（2023 年度第 2 回・通算第 8 回研究会）

シンポジウム「移動・国境・言語」／共同利用・共同研究課題「移民の継承語とエスニックアイデンティティに関する社会言語学的研究 (jrp000267)」2023 年度第 2 回研究会（通算第 8 回目）／第 34 回東京移民言語フォーラム

日時：2024 年 2 月 25 日（日）・26 日（月）両日とも 10:00–17:00

場所：東京外国語大学 AA 研大会議室（3 階 303 室）／Zoom によるオンライン開催

主催：AA 研基幹研究「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録：アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して」（DDDLing）

協賛：東京移民言語フォーラム

報告者：安達真弓（AA 研）

会の始めに、代表者である安達から 3 年間の課題の総括という本シンポジウムの位置づけについての説明があった。その後、2 日間に亘り、移民やマイノリティの言語について、データの理論的な検討から研究成果の教育的な応用可能性に至るまで、幅広いテーマに関し 11 件の研究報告と討論が行われた。プログラムは下記のとおりである。各報告の要旨はリンク先を参照されたい。

2 月 25 日（日）

司会：児倉徳和（AA 研所員）

安達真弓（AA 研所員）開会あいさつ

1. 吉田さち（AA 研共同研究員、跡見学園女子大学）、松本和子（AA 研共同研究員、東京大学）

[「多言語社会サハリンにおける日朝露間のコード切り替え—探索的研究—」](#)

2. 奥村晶子（AA 研共同研究員、神田外語大学）、松本和子（AA 研共同研究員、東京大学）

[「『多文化首都圏日本語』の可能性について—南米人移民の日本語を事例として—」](#)

3. 北村萌（東京大学大学院／日本学術振興会）

[「ドマリ語エルサレム方言話者のアイデンティティ行為の変化」](#)

4. 谷口ジョイ（AA 研共同研究員、静岡理科大学）

[「言語の島」における急速な言語シフトとその要因」](#)

5. 林貴哉（武庫川女子大学）

[「継承語に関するナラティブ研究の方法論的課題：在日ベトナム系移住者の事例から」](#)

2月26日(月)

司会：安達真弓(AA 研所員)

6. 櫻間瑞希(AA 研共同研究員、中央学院大学)

「内戦と変容：タジキスタンのタタール人社会にみる民族的紐帯と母語継承から考える」

7. 新井保裕(AA 研共同研究員、文京学院大学)

「上海市在住中国朝鮮族のモビリティとことば」

8. 山下里香(AA 研共同研究員、関東学院大学)、山田脩斗(関東学院大学、学部生)

「移民コミュニティと言語景観：「インド・ネパール料理店」の事例からの考察」

9. 中家晶瑛(お茶の水女子大学)

「日本に生まれ育ったニューカマー2世の継承語への意識と継承語学習への過程—神奈川県営団地で「外国につながる子ども」として育った青年の語りから—」

10. 王一瓊(お茶の水女子大学)

「母語教育は何を目指すべきか—日本の公立学校で母語教育を受けた卒業生の語りから—」

11. 坂本光代(上智大学)

「「モノリンガル」と「バイリンガル」の間(はざま)で生きる：継承語話者の葛藤」

児倉徳和(AA 研所員) 閉会あいさつ

本シンポジウムには107名(うち本課題に所属する所員・共同研究員14名)の参加があり、盛況のうちに行われた。

以上
(文責・安達真弓)